



佐々木ゆりか

12/12

◆ヒグマ対策について

Q.ゾーニングは地図で公開し、市民と共有することが協力を得る面で重要だと考えるがいかがか。

A.年度内に地図を含めゾーニング計画を策定する。

◆プラスチックごみ削減について

Q.マイボトルの活用を促進するため、市内にある既存の水飲み場・給水機を「給水スポット」として案内する取組を行ってはどうか。

A.給水スポットについて、案内等に取り組み自治体があることは認識しているが、今のところ本市で実施する予定はない。



鶴谷さとみ

12/15

◆乳幼児健診について

Q.「子どもノート」は、どのように活用しているのか。

A.標準的な成長発達過程や、成長に合わせた育児方法をまとめた冊子。健診時の集団学習や個別の育児・栄養相談で教材として活用している。

◆性教育の推進について

Q.必要な性知識をもって義務教育を卒業できる教育体制について見解を伺う。

A.児童生徒が、性に関して正しく理解し、適切な行動が取れるよう、学校教育活動全体を通じて指導する体制づくりが重要と考える。



7/9 京都府亀岡市

使い捨てプラスチックごみゼロを目指す取り組み

亀岡市内を流れる保津川は川下りの観光名所で、船頭さんたちの清掃活動をきっかけに、2018年、亀岡市は市議会とともに「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発信し、プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例を制定。また、プラごみの100%回収と地域内資源循環や、「亀岡の美味しい水」をマイボトルに注ぐことができる給水スポット等、事業者と連携し取り組んでいます。多岐にわたる事業予算には、ふるさと納税が充てられています。



▲亀岡市役所内の給水スポット

7/9 京都府亀岡市

一般社団法人 亀岡オーガニックアクション「学校給食プロジェクト」

「亀岡をオーガニックのまちにする」という活動理念のもと、2021年に法人を設立。天然記念物アユモドキの生息地保護のため、サンガスタジアム整備計画から外れた土地のうち、もともと水田だった場所を活用して有機米が栽培されています。学校給食への提供は、2022年、小学校1校からスタートし、2024年からは、市内18の小学校と義務教育学校に広がっています。オーガニック農業を通じて、食と農の地域循環を目指す取り組みがすすめられています。



▲亀岡オーガニックアクション理事 大江広一郎さんと有機米の圃場にて

11/17 厚岸町

小中学校での「香害」及び「化学物質過敏症」に関する実態調査

厚岸町教育委員会は、2023年、小中学校の児童生徒や学校職員等の健康維持管理を目的とする実態調査を実施。人工的な香料（化学物質）に不快を感じる、体調不良を起こす方が一定数いることがわかりました。また「香りて体調が悪くなる人がいることを知っているか」という質問に対し、「知っている」との回答は小学生37%、中学生61.8%。調査結果を小中学校の香料による健康被害について学ぶ授業で活用し、保護者にも共有しています。2025年度は、2回目の調査を実施し、結果が公開される予定です。



▲右から鶴谷さとみ、佐々木ゆりか、米倉みな子札幌市議



2025年第3回定例会 代表質問

佐々木ゆりか

9/4

◆保育所整備について

Q.「老朽化した公立保育所の再整備も含めた今後の在り方について引き続き検討する」とのことだが、再整備に向けた検討にあたっては幅広い市民参加の下で取り組む必要があると考える。見解を伺う。

A.社会情勢の変化等を的確に捉え、今後の保育需要を適切に見込むとともに、公立保育所が果たす役割、民間保育施設との機能分担を踏まえた上で、建替え等を含め検討していかなければならない。

◆泊原発再稼働について

Q.再稼働に関して不安を抱える市民がいると考えるが、見解を伺う。

A.再稼働にあたっては安全対策、事故が起きた場合等の対応などについて、きめ細かな情報提供が必要と考える。引き続き、本市においても、情報収集にしっかり努める。



市議会インターネット映像配信



佐々木ゆりか

鶴谷さとみ

寄稿

北海道道東地域の野犬と動物福祉

NPO法人ドッグレスキューしおんの会 理事 浜塚紋子

道東地域では、野犬による被害が年々深刻さを増し、地域住民の生活に影響を及ぼしています。住民への威嚇や追いかけ、乳牛への襲撃被害も起きています。2025年、野犬を減らすための対策として、釧路・根室管内で初めての「犬および猫の不妊去勢手術補助事業」が浜中町で開始され、近隣市町村では野犬の捕獲が行われています。しかし、釧路総合振興局での犬の収容可能頭数が6頭分しかなく、100頭以上の野犬が生息する実態とかけ離れています。「動物愛護」とは人が主体となる考え方で、「動物福祉」とは動物が主体となる考え方で両者は異なります。野犬にとっての幸福とは何かを考えることは難しく、すべての犬にとって必ずしも家庭犬になることではないかもしれません。犬の最低限の動物福祉が満たされることを目指し、行政とボランティアが協力して活動し、北海道に対応を求めています。



▲▼野犬の子犬が家庭犬になるサポートをしています



しおんの会 ホームページ

